



# 境内点描 青銅燈籠

本殿両脇の齋庭には一対の燈籠があります。青銅製で緻密な細工が随所に施された六角燈籠で、笠・火袋・台座をはじめ、通常円形が多い「竿」と呼ばれる柱部分まですべてが六角に統一された珍しい形に作られています。竿の部分にはつぎのような刻字があり、本殿南側の燈籠の表には  
 『奉献 従五位下周防守京極氏源高備』  
 本殿北側の燈籠の表には  
 『奉献 従五位下備後守京極氏源高聰』  
 両方の裏には  
 『文政七甲申年六月』 とあります。



当社御鎮座を實行された七代藩主京極高備（たかまさ）公と次男高聰（たかとし）公の名前で奉獻された貴重な燈籠で、笠や火袋部分には峰山京極家の家紋「角立て四ツ目」を頂いています。  
 文政七年（一八二四）は御鎮座の文化八年（一八一）から十三年後となります。創建間もないこの頃は境内整備が徐々に進められており、同年には境内参道正面にある大鳥居も世話人の奉獻によって建立されています。残念ながら、長年の風雪による痛みもはげしく、細工や部材が欠落破損していますが、二百年もの間、震災をも乗り越えて御本殿の最も近くに佇み、見守り続けてくれています。

平成23年御鎮座二百年大祭

**金 金刀比羅神社**  
ことひらじんじや

京丹後市峰山町泉1165-2  
 電話 0772-62-0225  
 FAX 0772-62-5993  
 メール info@konpirasan.com  
<http://www.konpirasan.com>

平成二十年  
 夏季秋季行事のご案内

こんぴらさんの  
**水無月祭**

七月二十九日  
 「茅の輪くぐり」二十八日より  
 「人形」受付 祓所参拜  
 午後六時より九時まで  
 「夜の市」開催  
 水無月祭実行委員会奉仕  
 十月十二日 神輿渡御祭  
 十日例祭

# 二百年祭奉賛会 大祭執行へ向けて 事業開始

六月十二日金刀比羅回総会席上で二百年祭 こととなり、大祭執行を含む祭行事は、今後奉賛会実行委員会が組織され、事業・予算の 各方面の有志を募つて運営委員会を組織して計画が承認されました。

吉村会長の下、金刀比羅会評議員までが実行 三年後に控えた記念大祭に向け、いよいよ執行することとなりました。



御鎮座記念式年大祭 奉幣祭  
平成二十三年 四月 十日 (日)  
御鎮座記念大祭  
御鎮座記念日二月二十三日を新暦に  
換算し四月大祭に斎行  
金御幣頒布  
百八十年祭の象徴として、讃岐から  
頂いた御幣を 二百年祭では各戸へ  
頒布しご神威を頒つ。奉賛者には神  
札立てを記念品として渡し、神前には  
奉幣者奉名簿を掲げる。

**記念例祭 神輿大巡行**  
平成二十三年 十月 八・九・十日  
神輿奉昇巡行 町内屋台総出動

**奉祝奉納行事**  
祭典時の奉祝行事を含め、年間を通じて  
様々な行事の開催  
お茶会 奉納展示会など 各種団体から  
開催してもらう。

**記念事業**  
奉賛者芳名額 記念誌作製

**予算額 壱千五百萬円**

## 記念大祭執行へ ご協力をお願い

金刀比羅神社二百年祭奉賛会

会長 吉 村 孝 道

昨年、金刀比羅神社責任役員総代会のご推挙をいただき、はからずも奉賛会長の重責を担わせていただくこととなりました。神社創建より二百年という歴史を考えますとその与えられた責務の重大さに身の引き締まる思いでございます。

平成十三年より準備委員会が発足し、尾瀬委員長、藤田委員長、ご歴史任のもとで境内整備事業を中心に見事完遂され、その後を引き継ぐ形で奉賛会を組織させていただきましたが、本会では、金刀比羅神社御鎮座二百年祭に奉賛し、実質的に当年の祭礼を始め諸行事を執行してまいることとなります。整えていただきました御社殿群や神域を、盛大且つ意義のある祭礼を行うことで後世へと伝えていくことが本会の趣旨でもございます。

この度金刀比羅会総会において、二百年祭奉賛会実行委員会を組織し、事業内容並に執行予算計画をご審議いただき、いよいよ実際の活動へ始動する運びとなりました。資金は金刀比羅会組織を中心に峰山町内の当社子崇敬者にあたる会員の皆様を中心に、内外のご関係各位にも幅広くご奉賛をお願いすることとし、この奉賛活動は実行委員会が担うことと致しました。一方二百年の大祭及び奉祝記念行事などは、運営委員会を組織し、広く意見を蒐集しながら具体案を計画し執行して参りたいと存じております。

これまでの歴史を振り返りましても、明治四十四年の御鎮座百年には当神社の象徴ともいえる石段を完成、昭和三十六年の百五十年祭では、戦後当地最大の行事といわれるほどの盛大なもので、峰山町各町

が祭礼に参画し秋の例祭神輿巡行を執行されたほか、新地花街を中心にした綺麗どころが大勢集つて奉納行事を行うなど、丹後一円から各種団体や有志がごぞつて行われたと伺っております。また、先代宮司のもとで行われた百八十年祭は、讃岐の金刀比羅宮からいただいた御幣を象徴に、神社縁起に因んだ御稚児行列を執行するなど、都度毎に歴史に大きな足跡を残してこられました。

現在の計画では、平成二十三年当年の四月大祭の折に 御鎮座記念大祭を、十月の例祭の折に記念の神輿巡行を執行する予定でございますが、この二つの大祭を柱に様々な奉祝記念行事を執行できればと考えており、大祭諸行事を含め計画段階からより多くの皆様に参加していただけますよう、運営委員会に祭行事部門を担っていただきたいと考えております。

一度きりの記念行事をあまりに盛大に行うのではなく、むしろ二百年を期に後世に長く伝えられる祭典や行事などが創り出せないかと期待しております。一案では、百八十年祭で讃岐より頂き、今日まで御本殿にお祀りされている御幣を、二百年祭には皆様にこのご神威をお頒かちできるようにと考えております。

当地で久しく続いております厳しい世情のなか、奉賛活動をはじめ種々のお願いをさせて頂くことは容易ではないと存じますが、是非この記念の大祭を通じて、京丹後の発展の機会となりますよう、力を尽くして参りますので、何卒皆様方のご支援、ご協力を賜りますことを 切にお願い申し上げます。